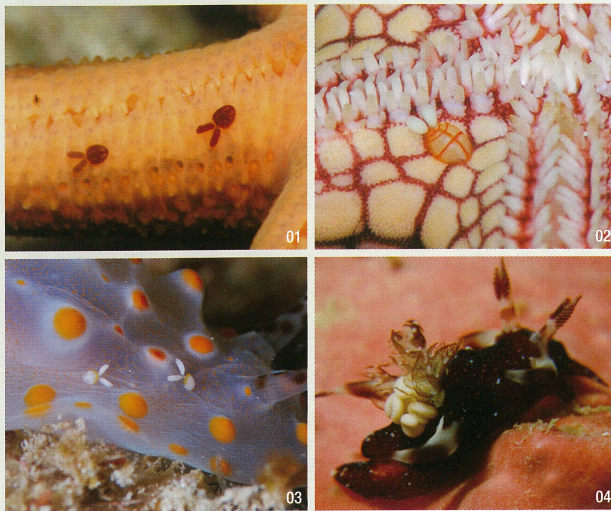




広瀬研だより ちょっとトリビアな無脊椎動物の話

Text = Rie Nakano
Photo = Rie Nakano, Kaoru Imagawa, Hiroshi Tokura,
Masanori Ishikawa and Daisuke Ueno

何だ？ 最強動物は 広瀬研における 第11回



(01) ルノンヒトデにつく寄生性コペポダ。
(02) ジュズベリヒトデにつくコペ。どちらも体表走り回りタイプ。(03) こちらも体表を走り回るタイプで、沖縄本島の一部のダイバーはこれを「ウサちゃんつきコンベイトウミウシ」と呼んで珍重していた。このウサギの耳に相当する部分はコペの卵塊。(04) *Trapania millabranca*につくコペ。白いくるしたものはコペの卵塊で、本体は鰓の後方の体内に埋もれている。なお先月号でも紹介したが、*T. millabranca*の顔はこの赤いカイメンではなく、カイメンについている単体性内肛動物だ。(05) チゴミドリガイにつくコペ。2008年春、沖縄本島某所でタスジミドリガイとチゴミドリガイを計50個体近く採集、1個体ずつルルーベで観察して発見した。あの日の上野君のコーンぶりは忘れることができない。(06) コールマンウミウシにつくコペ。色と模様まで宿主に似せている。写真01,02=上野大輔、03=都倉浩、04,06=今川郁 (Ocean Blue)、05=中野理枝

先

月号ではホヤ(広瀬先生&院生の小島葵)も刺胞動物(橋美子博士)も内肛動物(院生の杉山渚)もウミウシ(中野)の餌であることを



05

紹介した。広瀬研における私の地位、ではなく海底の食物連鎖におけるウミウシの位置はかなり高い。ウミウシって強い！……しかし甲殻類にはやや弱いようだ。ハナビラミノウミウシはヒメフタハバニツケガニというカニの好物らしいし、昔のNHKの番組『生きもの地球紀行』では、サラサエビがサラサウミウシを捕食するシーンを放映していた。甲殻類ではないが、同じ節足動物のウミグモの一種がクロヘリアメフラシやミノウミウシ類を捕食することも知られている。

ただし広瀬研の動物に限っていうと、ヤドカリ(大澤正幸博士)とウミクワガタ(院生の太田悠造)がウミウシを捕食した記録を私は知らない。つまり現時点で広瀬研の最強動物はウミウシってことになるのだが……実は強力な敵がいたのだ。『本州のウミウシ』でも少し紹介している通称「コペ」、正確にはコペポダ、日本語でいうと橈脚(カイアシ)類。フジツボやウミホタルに近縁の、小さな甲殻類である。

コペポダには海中をプランクトンとして漂うもの、岩や砂や海藻に潜むもの、そして他の生物に住みつく(=寄生する)ものがある。ウミウシに勝とうという見上げた根性

の持ち主とは、この寄生性コペポダのことだ。寄生コペの中には宿主の体表を走りまわっているやつらと、体表では飽きたらずに体内に侵入するやつらがいる。プランクトンのコペがエビっばい、つまり甲殻類らしい形状をしているのに対し、寄生性のコペはその宿主にとりつきやすい形に進化している。体内侵入タイプの中には映画『エイリアン』に登場する、人の顔に食らいつく子供エイリアンのような、ちょっと恐ろしい形をしているものもある(ただし解剖して顕微鏡で見ないと見えません)。

こ

この寄生コペの研究をしている大学院生が広瀬研に出没するのだ。上野大輔君といい、琉大理学部を卒業後、広島大学大学院に進学するも沖縄の青い空とサンゴ礁の海とオリオンビールが忘れられず、時々ビールを飲み、ではなくコペ採集のために沖縄に帰ってくる。もちろんビールもたくさん飲む。



06

そんな上野君にコペの強さについて語ってもらった。

「食物連鎖の中におけるコペの位置をひとことで評価するのはなかなか難しいですね。でも見方によっては一番強いのではないかと思います。クジラや魚はもちろんイカタコウニナマコ、ヒトデにホヤにカイメンに、サンゴにイソギンチャクなどなど、軒並みコペの魔の手に侵されているんで

すよ。コペから逃れた大型海洋生物を見つけるほうが難しいくらいで。コペってのは隙間があったら入り込み、利用できるものはなんでも利用する、究極の隙間産業を体現している存在です。ヤクザよりもタチが悪い」

自分の研究している動物をここまで悪く言う研究者も珍しい。しかし上野君は間違いなくコペを愛している。ある時ホンクロシタナシウミウシの体表に米粒のようなものがついていたので上野君にプレゼントしたところ「解剖して見たらめっちゃくちゃグロテスクでカッコいいコペでした」と言い、心の底から嬉しそうな顔をした。

「こんなに繁殖している生き物なのに、彼らの種数、生態、生き残り戦略、進化の過程など具体的なことはほとんど何もわかっていないんですよ。ダイビングをして見つけられる種のほとんどに名前すらついてないんです。僕はダイバー研究者として、知られざる寄生コペの神秘な世界について一石を投げられる存在になりたいです、なんちゃって〜(照)」

たまにしか来ない他大学の院生に、最強の地位を譲ることになってしまった。悔しいがしかたないので上野君の研究に協力しよう。ウミウシの背中にコペらしきブツが見えたら、ぜひ写真を撮ってご連絡ください。ご一報お待ちしております！

文=中野理枝

Profile>>87年0W取得。96年頃ウミウシに開眼。小野篤司さんの『ウミウシガイドブック1』『沖縄のウミウシ』を編集。『本州のウミウシ』を編集・執筆。09年4月、琉球大学大学院 理工学研究科 博士後期課程に進学。雑誌・書籍の編集や執筆の仕事の続けながら広瀬研究室にてウミウシ研究に邁進中。6月に福音館書店から絵本『ウミウシ』を上梓。
→hofukutei.exblog.jp

監修=広瀬裕一
琉球大学理学部海洋自然科学科教授・理学博士

Profile>>91年理学博士取得。その後3つの大学を転々として、97年より琉球大学に勤務。ホヤ博士としてはホヤノシラミ科というコペポダのグループが気になる。たくさん種類がいるホヤのいろんな場所に寄生していて、もしかするとホヤより種類が多いかも知れない。
→www.geocities.jp/lissoclinum/TunicataJ



冬から春にかけて、本州の海で見られるアカエラミノウミウシ。背面にある鮮やかなピンク色のくるしたものはコペの卵塊。コペそのものはウミウシの体内に入り込んでいる。「繁殖時期で栄養満点なウミウシに寄生し、子供を海にばらまいているんです」(上野君)。写真=石川雅教